

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	iv
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang	1
1.2 Perumusan Masalah	5
1.3 Tujuan Penelitian	5
1.4 Metode dan Teknik Penelitian	6
1.5 Organisasi Penulisan	7
BAB II LANDASAN TEORI	8
2.1 Pragmatik	8
2.2 Kohesi	14
2.3 Koherensi	24
2.4 Hubungan kohesi dan koherensi	26
BAB III ANALISIS	28
3.1 Kohesi dan Koherensi dalam puisi 雨のには	29
3.2 Kohesi dan Koherensi dalam puisi 海とかめも	51
3.3 Kohesi dan Koherensi dalam puisi みえない星	56
3.4 Kohesi dan Koherensi dalam puisi 私と小鳥とすずと	61
3.5 Kohesi dan Koherensi dalam puisi お日さん 雨さん	67
BAB IV KESIMPULAN	72

DAFTAR PUSTAKA	76
LAMPIRAN	vi
SINOPSIS	
RIWAYAT HIDUP PENULIS	

詩における一貫性と結束性の分析

(語用論の視をから見て)

スサンティ・デウイ

0242010



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

バンドン

2008

I. 序論

詩はテキストの一種類である。なぜかといと中にはまとまった意味をもっているからである。ある詩を解釈するために、その結束性と一貫性の分析によって解釈することができる。

3人の子供
遠慮がちな足の運びで
サレンバにやって来た
その夕方
「これ、私達から、
花輪に黒いリボン
私達申いたい

今日の昼射殺されたお兄さんのために」

上記の詩の断片はイスマイル・タウフィクが書いた「虐政」という

詩である。その詩には射殺された兄や姉の宿命に同情する子供達の心情が伝わっている。

詩は句間、節間においての関係において、ある意味を言示的に表すのである。その意味は詩に結束性と一貫性があるために取ることができるのである。上記の詩にも結束性（関わっている要素の調和）と一貫性（文の中にある意味の調和）が見られる。第1行、第2行、第3行と第4行の

関係には結束性はないが、一貫性がある。結束性がないのはその4行においては要素の調和がないためである。「遠慮がちよ足の運び」、「サレンバにやって来た」という文はお互いに関係がない句節である。しかし、「3人の子供が夕方にサレンバにやって来た」というその詩においての意味が含まれるため一貫性がある。また、第5行と第6行にも結束性がないが、一貫性はあある文である。結束性がないのは、その文においては要素の調和がないためである。つまり、「私達」と「黒いリボン」とは関係の調和がない。しかし、一貫性があるのは「その花輪に付いた黒いリボンはその子供達からである。」という意味の関係があるためである。第7行と第8行は結束性と一貫性がある文である。文のにおける要素の調和があるためである。「弔いたい」と「射殺された」という単語は「死によって生じた悲しみ」という関係の調和を持っている。その文における一貫性は「ある兄の死でその3人の子供達に悲しみが生じる」という意味の調和である。

結束性と一貫性がテキスト（言語の構造における部分と部分の意味または意味的の単一）を作り出すものである。結束性は体系的に鳴り指し合わせたり、関わってたりする言語の要素の事態を示す。一方、一貫性は「意味的のまとまりによりある談話またはテキストの妥当性」であるため、「ある人の認識に基づくテキストと言外の要素との関係」と理解しても良い。（クスハルタンテイ 2005:96）。結束性と一貫性は語用論にある言語学の一つである。語用論は詩に含まれた意味を解釈するために利用できる。語用論は言外の要素の影響を受けた意味を研究分析する討問である。リーチ（1983:10）は”*Pragmatic is to distinguish the study of the general condition of communicative use of language, and to exclude more specific local condition of language use*”と述べた。その陳述により「語用論は慣用句がある場面においてどのようにして意味を持つかということを理解するために利用できる」ということが分かる。

2. 本論

「お日さん、雨さん」

金子美鈴

ほこりのついたしば草を
雨さんあらってくれました。
あらってぬれたしば草を
お日さんほしてくれました。

こうしてわたしが
ねころんで
空をみるのに
よいように

第1行の「ほこりのついたしば草を」と第2行の「雨さんあらって

くれました」においては文法的結束があり、それは第1行と第2行を接続する助詞「～を」があるからである。その行にある助詞「～を」は「～目的」という意味を持つ。その使用によって文と文を結び付け、その二つの行の意味結びを作きにより、結束性が生じる。その行の結束性は「しば草についたほこりは雨水が洗った」という意味を述べる。

第2行の「雨さんあらってくれました」と第3行の「あらってぬれたしば草を」の間では反復復唱結束性がある。なぜかという、「あらって」という繰り返されたから。第2行の「あらって」は第3行で反復した。その行の一貫性は「雨がきれいにしたしば草は今濡れている」という意味を述べる。

第3行の「あらってぬれたしば草を」と第4行の「お日さんほしてくれました」の間に接続する助詞「～を」を使ったため文法的結束性がある。行と行の間の助詞の使用が意味の調和を作り、それによりその行に一貫性が生じる。その行の一貫性は「濡れたしば草は太陽が干してくれた」という意味を述べる。

第4行の「お日さんほしてくれました」と第5行の「こうしてわたしが」の間においては要素の調和がないため、結束性がない。しかし、その行において「作家は太陽が輝く役目をえもっている、何もできない自分と違うと思っている」と述べる一貫性はある。

第5行の「こうしてわたしが」と第6行の「ねころんで」（横になった）、第6行の「ねころんで」と第7行の「空を見るのに」、そして第7行の「空を見るのに」と第8行の「よいように」のそれぞれの間においては要素の調和がないため結束性がないが、一貫性はある。例えば、第5行と第6行の間においては「作家が何もできず、横になるしかができないこと」という意味を持つ。第6行と第7行の一貫性は「横になるしかでき

ない自分に、できるのは空を見ることだけだ。」という意味を述べる。一方、第7行と第8行の一貫性は「空を見るときに、「自分の具合がよくなるように」という望みがある」ことを述べている。

3. 結論

1. その詩においての結束性の関係は次の通りである。

行	文法的結束	語彙的結束
1と2	無	助詞
2と3	反復復唱	無
3と4	無	助詞
4と5	無	無
5と6	無	無
6と7	無	無
7と8	無	無

2. この詩においては結束性があることにを一貫性を生じる。その一貫性

は読者が作家が言いたい意志や意味を理解するときに役に立つ。

3. この詩の結束と一貫性は結束がないが、一貫性はある。